

# H29年度 公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

1

|      |   |
|------|---|
| 施設名  | 新潟市食と花の交流センター   |
| 管理者名 | にいがた未来共同事業体 <b>指定期間</b> 平成26年4月1日 ~ 平成30年3月31日  |
| 担当課  | 農林水産部 食育・花育センター   |
| 所在地  | 新潟市中央区清五郎336番地  |
| 根拠法令 |   |
| 設置条例 | 新潟市食と花の交流センター条例   |
| 施設概要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○敷地面積 約5.7ヘクタール</li> <li>○主な施設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・花とみどりの展示館</li> <li>・見本園</li> <li>・情報発信コーナー</li> <li>・直売所</li> <li>・レストラン</li> <li>・多目的広場</li> <li>・駐車場</li> </ul> </li> </ul> |

| 施 設 設 置 目 的  |
|--|
| <p>本市が誇る食と花の魅力を市内外に発信し、多くの人にその魅力に触れる機会を提供することにより、食と花の販路の拡大及び農村と都市との間の交流を推進し、もって農林水産業の振興及び市民の豊かな生活の実現に資することを目的とする。</p>  |
| 管 理 ・ 運 営 に 関 す る 基 本 理 念 ， 方 針 等  |
| <p>1 事業理念</p> <p>(1) 地域農業振興につながる施設<br/>本市の食や花に関する情報発信や地域独自の商品開発、提供などにより地域農業の振興を図る。</p> <p>(2) 市民に愛される食と花の施設<br/>市民に親しまれ、地域農業に対する理解や誇りを感じられる事業を展開する。</p> <p>(3) 本市農業の先導役として、商品開発や食・花を活かしたライフスタイルの提案などを継続的に推進する。</p> <p>2 重点政策</p> <p>(1) 市内外に本市の食と花のプロモーションを展開し、ブランド力を高め、販路の拡大を図る。</p> <p>(2) 食と花の新たな価値の創造及びライフスタイルを提案する新規事業の企画を行う。</p> <p>(3) 食と花によるにぎわいの創出及び憩いの空間を提供する。</p> <p>3 管理運営方針</p> <p>(1) 当該業務について善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置の目的を踏まえて、各施設との適正な一体的な管理によりその効用を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、各施設利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 施設利用者や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p> |

|      |   |      |                        |
|------|---|------|------------------------|
| 施設名  | 新潟市動物ふれあいセンター   |      |                        |
| 管理者名 | にいがた未来共同事業体   | 指定期間 | 平成25年4月1日 ~ 平成30年3月31日 |
| 担当課  | 保健衛生部 保健所環境衛生課  |      |                        |
| 所在地  | 新潟市中央区清五郎345番地1   |      |                        |
| 根拠法令 |   |      |                        |
| 設置条例 | 新潟市動物ふれあいセンター条例   |      |                        |
| 施設概要 | 敷地面積 約4,299㎡ 延床面積 709㎡<br>建物構造 木造平屋建<br>主な施設<br>・動物飼育棟<br>・動物ふれあいハウス<br>・アルパカ広場<br>・ひつじ・やぎ広場<br>・ポニー広場<br>・ふれあい広場 |      |                        |

| 施設設置目的   |   |
|--|---|
| 動物とのふれあいを通じて人と動物との関わりを学ぶ機会を提供することにより、動物愛護の精神を養い、これを普及させ、もって人と動物が共に暮らす社会の実現に寄与することを目的とする。 |   |
| 管理・運営に関する基本理念、方針等  |   |
| 1 事業理念   | <p>(1) 命の大切さを感じる施設<br/>動物とのふれあいを通して、命の大切さ、やさしい心、思いやりの心を育む。</p> <p>(2) 市民の健康維持と交流の施設<br/>動物とのふれあいは、市民の心にやすらぎや癒しを与え、心身の健康づくりに効果をもたらす。</p> <p>(3) 動物への理解を深め学ぶ施設<br/>動物に関する知識を正しく学び、体験により理解を深め、人と動物が共に生きる社会の実現を目指す。</p>   |
| 2 重点政策   | <p>(1) 動物の特性及び動物との適切なふれ合い方の情報を提供する。</p> <p>(2) 動物とふれ合う機会を提供する。</p> <p>(3) 保健所が保護した犬及び猫のうち譲渡することができるものを飼育・管理し、譲渡の推進を図る。</p>  |
| 3 管理運営方針   | <p>(1) 当該業務について善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置の目的を踏まえて、各施設との適正な一体的な管理によりその効用を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、各施設利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 施設利用者や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p> |

|      |  |      |                        |
|------|--|------|------------------------|
| 施設名  | 新潟市こども創造センター   |      |                        |
| 管理者名 | にいがた未来共同事業体  | 指定期間 | 平成25年4月1日 ~ 平成30年3月31日 |
| 担当課  | こども未来部 こども政策課  |      |                        |
| 所在地  | 新潟市中央区清五郎375番地2  |      |                        |
| 根拠法令 |  |      |                        |
| 設置条例 | 新潟市こども創造センター条例   |      |                        |
| 施設概要 | 敷地面積 3,024㎡, 延床面積 2,990㎡<br>建物構造・主な施設内容(構成施設の内容)<br>鉄骨造・一部鉄筋コンクリート造4階建<br>1階 陶芸・美術・ワークスペース, 光と音の造形スペース, 展示スペース<br>2階 総合活動スペース<br>3階 総合活動スペース・保育ルーム<br>4階 総合活動スペース, 憩いのスペース, ふれあい緑化スペース |      |                        |

| 施設設置目的   |   |
|--|---|
| 子どもに創作活動及び体験活動の機会及び場を提供することにより、子どもの自ら生きる力を伸ばし、及び共に生きる力を育むことを目的とする。 |   |
| 管理・運営に関する基本理念、方針等  |   |
| 1  | <p>基本理念</p> <p>(1) 市民との協働による市民主体の運営<br/>市内の美術団体、地域の活動家、教育現場の指導者など、既に造形活動を展開されている多くの方々や子どもの健全育成や子育て支援家庭への支援に取り組む多くの方々の協力も得ながら、様々な企画を市民が一緒になって活動を支援する仕組みをつくり事業を展開する。<br/>あわせて、様々な広報活動を積極的に行い、情報発信するとともに、市民からの情報提供を受け、より良い運営に努める。</p> <p>(2) 市民の文化活動活性化に向けた運営<br/>幼稚園・保育園・小中学校での活動や授業に活用できるプログラムの作成や様々な遊び活動などを通して、子どもの創造性や主体性を高めるような事業を展開するなど、市民の文化活動をさらに盛り上げ、継続し地域に広めていく拠点施設としての運用を図る。</p> <p>(3) 周辺環境・施設との一体的な運営<br/>立地条件のメリットを最大限活用し、施設(ハード)間の連携とともに、動植物とのふれあいに基づく学習・発見・体験・感動を創作活動に発展させるよう、創造性がさらに高まる運営(ソフト)を充実させ五感を刺激し自分の思いや考えが表現できる豊かな人間性を育むことを目指す。</p> |
| 2  | <p>重点政策</p> <p>(1) 子どもの「自ら生きる力」を伸ばし、「共に生きる力」を育むうえで大切な、創造性を育む創作活動や体験活動事業を実施する。</p> <p>(2) 多くの市民や団体・企業などを巻き込んだ地域連携活動を行う。</p> <p>(3) 幼稚園・保育園、小中学校の活動支援及び施設利用の促進を行う。<br/>また、大学や教育関連団体等とプログラムや人材の交流を行うとともに、研究や調査活動を積極的に支援する。</p> <p>(4) 市内の教育関係団体や、子ども関連施設などにおける情報発信拠点などセンター事業を行う。</p>   |
| 3  | <p>管理運営方針</p> <p>(1) 当該業務について善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置の目的を踏まえて、各施設との適正な一体的な管理によりその効用を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、各施設利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 施設利用者や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p>   |

|      |  |      |           |              |
|------|--|------|-----------|--------------|
| 施設名  | 新潟市アグリパーク  |      |           |              |
| 管理者名 | にいがた未来共同事業体  | 指定期間 | 平成26年4月1日 | ～ 平成30年3月31日 |
| 担当課  | 農林水産部 食育・花育センター  |      |           |              |
| 所在地  | 新潟市南区東笠巻新田3044番地   |      |           |              |
| 根拠法令 |  |      |           |              |
| 設置条例 | 新潟市アグリパーク条例  |      |           |              |
| 施設概要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○敷地面積 約4ヘクタール</li> <li>○主な施設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場及び畜舎</li> <li>・農業体験クラブハウス及び体験棟</li> <li>・直売所</li> <li>・レストラン</li> <li>・宿泊コテージ及び研修棟</li> <li>・食品加工支援施設</li> </ul> </li> </ul> |      |           |              |

| 施設設置目的  |   |
|---|---|
| 市民が農業に触れ、及び親しむ場並びに農業を学ぶ場を提供することにより、地域の農業に対する理解を深め、もって郷土愛を育むことを目的として、並びに市内の生産者等に対する食品の加工等に関する技術的支援を行うことにより、農業の振興に資すること |   |
| 管理・運営に関する基本理念、方針等   |   |
| 1   | <p>事業理念</p> <p>(1) 地域農業振興につながる施設<br/>本市の食や花に関する情報発信や地域独自の商品開発、提供などにより地域農業の振興を図る。</p> <p>(2) 市民に愛される食と花の施設<br/>市民に親しまれ、地域農業に対する理解やほこりを感じられる事業を展開する。</p> <p>(3) 本市農業の先導役として、商品開発や食・花を活かしたライフスタイルの提案などを継続的に推進する。</p>   |
| 2   | <p>重点政策</p> <p>(1) 全国初の本格的な教育ファームとして、子どもたちに生産・栽培から加工・販売までの農から食の一連の体験プログラムを提供し、食の豊かさ、大切さ、命の大切さを伝え、郷土愛を育むと共に豊かな感性と創造性を形成する。</p> <p>(2) 新規就農者に対し、農業の知識、技術及び技能の習得のためのカリキュラムを提供し、円滑に就農が進むよう支援する。</p> <p>(3) 農家、事業化への農業技術・加工技術の支援及び食品加工の新商品の開発により6次産業化を推進する。</p>  |
| 3   | <p>管理運営方針</p> <p>(1) 当該業務について善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置の目的を踏まえて、適切な管理によりその効用を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的な管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、各施設利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 施設利用者や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p> |

要求水準・目標値(評価指標)

| 視点                   | 評価項目  | H29年度評価指標  | いくとびあ食花3施設 |            |            |  | H29年度実績値  | 評価   | コメント   |
|----------------------|---|--|------------|------------|------------|--|---|--|--|
|                      |   |  | いくとびあ食花3施設 | 食と花の交流センター | 動物ふれあいセンター | こども創造センター                                    |   |  |  |
| 市民                   | 入場者数  | いくとびあ食花3施設の来場者数 : 107万人以上/年                          | ○          |            |            |  | 1,038,111人  | C  | 指標を下回った                                      |
|                      |   | アグリパーク : 20万人以上/以上                                   |            |            |            | ○  | 173,792人  | C  | 指標を下回った                                      |
|                      |   | 宿泊施設の稼働率 : 39%以上/年                                   |            |            |            | ○  | 37%   | C  | 指標を下回った                                      |
|                      | 団体利用  | 食と花の交流センター : 利用団体360団体以上/年                           |            | ○          |            |  | 346団体   | C  | 指標を下回った                                      |
|                      |   | 動物ふれあいセンター : 利用団体590団体以上/年                           |            |            | ○          |  | 542団体   | C  | 指標を下回った                                      |
|                      |   | こども創造センター : 利用団体440団体以上/年                            |            |            |            | ○  | 432団体   | C  | 指標を下回った                                      |
|                      | 交流の拡大   | 交流イベント : 8回以上/年                                      | ○          |            |            |  | 11回   | A  | 指標を大きく上回った                                   |
|                      | 多彩な事業展開   | 食・花・こども・動物分野のコラボ事業の実施 : 年130回以上/年                    | ○          |            |            |  | 88回   | C  | 指標を下回った                                      |
|                      | 食と花のプロモーション   | 企画イベント : 130回以上/年                                    |            | ○          |            |  | 47回   | C  | 指標を下回った                                      |
|                      | 食育の推進   | 教育ファームカリキュラムの受講者 : 27,000人以上/年                       |            |            |            | ○  | 25,480人   | C  | 指標を下回った                                      |
|                      | 新規就農者支援   | 就農支援プログラムの受講者数 : 600人以上/年                            |            |            |            | ○  | 764人  | A  | 指標を大きく上回った                                   |
|                      | 6次産業の推進   | ・食品加工支援講習会の開催 : 70回以上/年<br>・食品加工支援講習会の受講者 : 470人以上/年 |            |            |            | ○  | 70回<br>518人   | A  | 開催数は指標通りだが、受講者数が指標を大きく上回ったためAとした。            |
| 広報の充実<br>※( )はアグリパーク | ・HPの情報更新 : 50回以上/年(20回以上/年)<br>・アクセス件数 : 39万回以上/年(12万回以上/年) | ○  |            |            | ○          | 316回(222回)<br>398,192回(119,963回)             | B   | アクセス件数が指標を下回っているが、更新回数は指標を大きく上回っているためBとした。 |  |
| 利用者の満足度              | 利用者アンケートで「満足」が85%以上   | ○  |            |            | ○          | いくとびあ食花3施設: 93%<br>アグリパーク: 89%               | A   | 指標を大きく上回った。                                |  |
| 財務                   | 適正な財政運営   | 収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行                                 | ○          |            |            | ○  | こども創造センター、食と花の交流センターにて収支が赤字、指定管理事業も赤字のためCとした。   | C  | 食と花の交流センターにて収支が赤字、指定管理事業も赤字のためCとした。          |
|                      | 適正な財務管理   | 財務マニュアルの作成及び収支状況の記録                                  | ○          |            |            | ○  | 適正に実施   | B  | 指標通り   |
| 業務                   | 安心・安全の確保  | ・防災訓練: 年2回以上実施<br>・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成             | ○          |            |            | ○  | いくとびあ食花3施設: 2回<br>アグリパーク: 2回<br>いくとびあ食花3施設、アグリパークとも左記マニュアル作成済                               | B  | 指標通り   |
|                      | コンプライアンスの徹底   | 職員へのコンプライアンス研修受講 : 1回以上/年                            | ○          |            |            | ○  | いくとびあ食花3施設: 1回<br>アグリパーク: 1回  | B  | 指標通り   |
|                      | 市内産業の貢献   | ・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者(店舗)等からの調達率 : 90%以上    | ○          |            |            | ○  | いくとびあ食花3施設86%<br>アグリパーク: 100%   | B  | いくとびあ食花3施設では指標を下回ったが、アグリパークが指標を大きく上回ったのでBとした |
|                      | 関係団体・地域との調整   | 関係機関・地域との連絡調整会議の実施 : 各1回以上/年                         |            | ○          |            | ○  | いくとびあ食花3施設: 鳥屋野湯南部連絡調整会議1回<br>アグリパーク: 大鷲地区コミ協、南区観光農園、白根大陽合戦、加茂農伯推進協議会、根岸コミ協、JR東日本新潟支社等のべ23回 | A  | 食と花の交流センターでは指標通りであるが、アグリパークが指標を大きく上回ったのでAとした |
|                      | 市民協働の推進<br>※( )はアグリパーク                                      | ボランティアの受入れ : 延べ2,000人/年以上(4施設合計に変更)                  | ○          |            |            | ○  | 1,627人(740人)  | C  | 指標を下回った                                      |
|                      |   | 市内の動物関係団体等との連携事業 : 6回以上/年                            |            |            | ○          |  | 8回  | A  | 指標を大きく上回った。                                  |
|                      |   | 市内の子ども創作・体験活動に関する個人および団体等との連携事業 : 200回以上/年           |            |            |            | ○  | 192回  | C  | 指標を下回った                                      |
|                      | 社会貢献<br>※( )はアグリパーク   | 施設内の各種作業についての障がい者の受付 : 延べ260人/年以上(4施設合計に変更)          | ○          |            |            | ○  | 110人(98人)   | C  | 指標を下回った                                      |
| 施設の稼働                | 年間休館日数 : 24日以内/年(いくとびあ3施設及びアグリパークの各休館日に変更)                  | ○  |            |            | ○          | いくとびあ食花3施設: 動物、こども21日、交流センター5日<br>アグリパーク: 無休 | A   | 指標を大きく上回った。                                |  |
| 人材                   | 労働基準の充足   | 労働関係法令の遵守  | ○          |            |            | ○  | 適正に実施   | B  | 指標通り   |
|                      | 業務の理解度と習得度  | 職員の業務研修 : 1人あたり2回以上/年                                | ○          |            |            | ○  | いくとびあ食花3施設: 4回<br>アグリパーク: 3回  | A  | 指標を大きく上回った。                                  |
|                      | 市内雇用の貢献度  | 市内住居者の雇用率 : 90%以上                                    | ○          |            |            | ○  | いくとびあ食花3施設: 93%<br>アグリパーク: 85%  | B  | いくとびあ食花3施設では指標を大きく上回ったが、アグリパークが指標を下回ったのでBとした |
|                      | 支援者の育成  | 支援者研修会の実施 : 12回以上/年                                  |            |            |            | ○  | 76回   | A  | 指標を大きく上回った。                                  |

## ■食と花の交流センター

オープンから4年目を迎えた本年度の食と花の交流センターの来場者数は438,192人となり、前年度に比べ109.9%となった。

来場者数の増大を牽引したのは花畑である。本年度は無料期間についてカウンター数値(入りと出を考慮し係数0.45を乗じる)を入場者数として報告してきた。より実際的な利用報告となったと考えている。次年度は通年で花畑の日中無料化を行う予定であり、さらなる来場者数の増大を期待している。

夏季と冬季の二度にわたって開催したイルミネーションでは、開催期間中にそれぞれ夏季15,000人、冬季11,000人の利用があったが、一日の入場者数が2,000人を超える日もあった。ガーデンの周知に貢献していると考えている。

一方でレストランの入場者数は前年度比で84%にとどまった。年度途中には改善策として、通常料金に加えてステーキプランを用意し選ぶことができるようにしたり、月1回の休業日を中止するなどした。基本的に無休での営業とすることや、ステーキプランの設定は次年度も引き続き継続する予定である。

直売所の来場者数は前年度比99.4%となり、ほぼ前年度並みとなった。8月までの累計では前年度比128.6%と好調であったが、9月で直売所内の一部出店舗が撤退したため、年度後半は前年度を下回った。撤退後のスペースについては次年度JA新潟市が売場面積を拡大して出店する予定である。ワンフロア全体をJA新潟市が運営し売場をより効果的な配置とし広報も一体化することで、来場者数の拡大を見込んでいる。

イベントは8大イベントを中心に11の催しを開催した。前年度まで6月に行っていた8大イベントの一つについて、小中学校の運動会などの催しとの日程重複を避ける等の目的で本年度は4月に開催した。集客数は前年度と同程度となったが、もえいずる春の季節を楽しんでもらうというコンセプトで様々な体験を楽しんで頂くことができた。2月にバレンタインをテーマにイベントを開催したが、前年度までの開催時季であった1月から開催月をずらしたことが奏功し、いくとぴあ食花全体では前年度と比べ2,000人程度の来場者数増となった。8大イベント全てへの集客を狙い本年度に初めて行った「8大イベントスタンプラリー」ではイベント日ごとに毎回100人程度のスタンプ捺印があった。最終的に87人から景品応募があり、一定の効果があったと考えている。スタンプラリーは次年度も継続する予定である。

また外部団体主催イベントとして17の催しを開催したが、新潟市主催による鳥屋野物語2017や新潟県主催によるとやの潟環境舟運への参加では、鳥屋野潟周辺施設としての一体感の醸成につながったものと考えている。同じく外部団体主催で開催したフォトコンテストでは30名を超える応募者から100件程の作品応募があったが、同イベントが写真愛好家の中で一定の知名度を得ていることがうかがえる。

今後も定期的な情報共有の場の確保、施設相互での連携活動の推進などを積極的に行っていくことや、魅力ある様々なイベント企画、他施設・団体との連携、多様な広報の実施などを積極的に行っていくことで、お客様に愛されることのできる施設、お客様のことを第一に考えた運営を継続して目指していく。

## ■動物ふれあいセンター

本年度の「市民」に関して、8月、3月の入館数が昨年同月と比べ大幅に超える事が出来た。全体を通して、目標達成することが出来た。魅力あるイベント作りや効果的な広報が出来ていたと考える。団体利用に関しては目標達成に至らなかった。学校や団体などに団体プログラム内容を改めて説明する事や、利用しやすい環境づくりが必要だと考える。

譲渡の推進については前年度より全体では受入数が少なかったが、犬の受入数は前年度を上回った。写真展示などでPRする機会を増やしたことが要因だと考えられる。前年度と同等の高い譲渡率を達成することができた。当センター飼育管理部職員による飼育環境の整備と対象動物の育成もさることながら、保健所との柔軟かつ円滑な連携によって本実績を達成することができたと考える。

当センターの入館者数は天候に左右されやすいため次年度の目処を立てることは非常に難しいが、いくとぴあ食花各施設との交流や、関連団体との連携により魅力的な企画を実施し、施設の魅力、利便性を向上させて当センターの付加価値を高め次年度の各種目標を達成したい。

## ■こども創造センター

オープン景気が過ぎたことが引き続き影響したこともあり、総利用者数は 268,065 人となり、昨年度比 93%と昨年度の実績を割り込む結果となった。しかしながら、いくとぴあ食花内の他施設同様当施設の周知も進んでおり、引き続き多くのリピーターに利用されている。

当センターの特徴である創作等体験活動の総件数は 3,582 件(前年度比 119%)となり、利用者数は 48,073 人(前年度比 90%)となった。長時間滞在の利用や複数回来館での継続・発展的な利用は、昨年度以上に増加している。また、利用者の主体性を生かした事業展開が依然有効であることが伺える。

当センターの利用者数獲得の一つの柱である団体利用では、「団体体験プログラムシステム」が定着し、年間で約 432 件(前年度比 100%)、16,936 人(前年度比 95%)と依然好調となっている。団体プログラムアンケートでは、活動内容満足度 94%、事前打合せ満足度 94%、職員の対応満足度 96%と今まで同様に高い評価を得ている。

展示については、76 件と昨年度(62 件)以上の展示を計画的かつ期間に切れ目なく実施できた。また、展示内容も利用者の作品中心に行えた。とりわけ、シンボルツリー展示では、小さいお子さんの「見て見て要求」を充たすことができ、「こども創造センター館長メモリーズ」では、造形活動や子育て情報が提供できた。

施設設備点検については、仕様書を遵守することはもちろんのこと、きめ細やかな清掃や、当施設独自に全職員による施設・備品の点検を実施し、さらには、日常の巡回で発見された不具合にも迅速に対応したことにより、けが、施設に対する要望も減少した。

以上のような取り組みにより、アンケートから見る利用者満足度は 91.7%と前年度とほぼ同様な数値であり、さらに、アンケートに記載される当施設への励ましや感謝の内容も引き続き多数頂戴している。

次年度も引き続き、「誘うシカケ」、「楽しみ、学び、自身を育むシカケ」、「市民協働のシカケ」の3本のシカケを確実に推進しつつ、Creative Learning Center の名が示す通り、こども創造センターが本来持っている存在目的・意義の実現に努めるとともに、来場者数の動向を分析し、利用者満足度を高める各種施策を実施することでより多くの入館者数の獲得を目指すものとする。

## ■アグリパーク

平成29年度の総来場者数は173,792人となった。対前年度比で89.7%である。約1割(△20,000人)の減少となった。来園者の多い月では9月、8月、5月の順であり、1月及び2月は1万人を切った状況にある。今年度も冬期間の来園者の落ち込みが顕著であり、今後、年間を通じて安定した集客が大きな課題である。

教育ファーム学校関係では、206校、10,997人が来園した。平成28年度と比較して、利用学校は17校増、583人増えている。月別の利用では、5月、6月、7月、9月、10月の利用が多く、1月から3月までが少なかったが、イチゴを利用したASP実施により少しづつ冬期間の利用が増えた。利用学校の約95%が市内の園・学校であるが、三条市、五泉市、新発田市など市外からの利用が学校11校あった。参加学校からの評価は引き続き高く、満足度も高かった。

教育ファーム(一般)では、15,252人の受入となった。前年度と比較して、団体利用が減り、個人利用が増加している傾向がある。今後の課題として、来園者を飽きさせない工夫と冬季間の利用者の増加を図る必要がある。

就農支援事業では、稲刈り体験、ウィークデイ及びウィークエンド農業塾、就農相談、ニューファーマー研修、農業経営講座、農・福連携事業など多岐に亘る事業を実施し着実に農業、就農に対する理解の深耕に寄与していると考えられる。今後は、農業者の高齢化や担い手不足、障がい者の就労など農業には大きな課題等があることから新潟市アグリパークの就農支援事業もそれらに対応した多様な事業展開を行政や関係団体とより連携して行う必要がある。

食品加工支援業務関係では、農業の6次産業化のベースとなる食品加工の基礎を学ぶための食品加工講座を70回開催し、延べ518人が受講した。試作のための加工室は延べ287回の利用があり、543人が利用した。個別の加工室利用者は86%が農業関係者であった。29年度ではバラドレッシング、市内の特産品を用いたジャム、完熟梅ドレッシングなど17品(25アイテム)が新たに商品開発された。市外からの利用者も増え、29年度の商品開発は、単年度として

今まで最も多かった。本市の6次産業化の取組みに対する視察者も増大する傾向にあり、農産物加工を目指す農家にとって身近にある食品加工施設を手頃に使用できるメリットが注目されている。

次年度についても引き続き各種取組みを継続していくとともに、一般利用者増大のため、直売所やレストランの各種イベントや体験講座などを検討、実施し、より市民に近い施設を目指した運営を行い、利用者数の増大、行政施策の市民への周知を目指すものとする。



## 所管課による総合評価(所見)

### ●農林水産部 食と花の推進課

#### ■食と花の交流センター

食と花の交流センターの設置目的や事業計画書に基づいた適切な管理運営が行われている。

いくとぴあ食花の各施設や周辺施設と連携・協力して、交流イベントやコラボ事業を実施するとともに、ホームページやSNS、メディアなどを活用した幅広い周知・広報を行っている。団体利用の受入れも積極的に行なっており、こうした努力の結果、来場者数が前年度を大きく上回ったことを高く評価する。

利用者の満足度は昨年度までと同様に高い水準にあり、日ごろの職員の接遇や来場者が楽しめるよう創意工夫をこらした企画の実施などによって、高い評価につながったと思われる。引き続き高評価を維持するよう努めていただきたい。

運営収支については、入場料収入の減や自主事業収入の減などにより予算を下回る結果となった。これまでも経費の見直しなどの努力をしているが、いくとぴあ食花の施設全体で楽しめる企画や、様々なメディアを活用した周知・広報をこれまで以上に充実させることで、新規の来場者を掘り起こすとともにリピーターの確保につなげ、多くの来場者に満足していただく中で、収入を今以上に伸ばせるよう取り組んでいただきたい。

#### ■アグリパーク

アグリパークの設置目的や事業計画書に基づいた適切な管理運営が行われている。

来場者数については目標を達成できなかったが、事業ごとで指標を見た場合、就農支援事業、食品加工支援事業の利用者数においては目標を上回っている。教育ファーム事業においては、学校関係の利用者が昨年度より増加している一方、一般利用者が減少していることから、特に夏休み期間など学校関係の利用が少ない時期に自主事業をより一層充実させるなど、施設の特性を生かした新しいプログラムの検討・導入を期待する。

来場者の満足度は目標を上回っており、日ごろの職員の接遇や来場者が楽しめるよう創意工夫をこらした企画の実施などによって、高い評価につながったと思われる。今後も高評価を維持できるよう取り組んでいただきたい。

運営収支については、自主事業などの収入が予算比で減少したものの、経費の節減に努めたことで収支の改善が図られたことを評価する。

引き続き、現在の取組みを更に発展させ、多くの方が利用し満足してもらえる施設となるよう取り組んでいただきたい。

### ●保健衛生部 保健所環境衛生課

#### ■動物ふれあいセンター

動物ふれあいセンターの設置目的に沿った体験事業を積極的に実施し、事業計画書に基づき適切に管理運営されている。

来場者数が前年度と比較して増加したことについて高く評価する。交流イベントの充実や多目的広場(ドッグラン)の利用増等、指定管理者による努力が来場者の増に繋がったものと思われる。また、利用者の満足度も前年度より高くなっており、引き続き高い利用者満足度を維持するよう努めていただきたい。

譲渡の推進については、昨年度同様の高い譲渡率を達成したことを評価する。今後もホームページやSNSなどを活用し、譲渡事業を推進していただきたい。

次年度からは指定管理者として新体制の下、尚一層いくとぴあ食花各施設との連携を強化し、魅力あるイベントを開催し、新規の来場者及びリピーターの確保に繋げていただきたい。

## ●こども未来部 こども政策課

### ■こども創造センター

事業計画に基づき、適切な管理運営が行われている。また、収支については運営面の様々な工夫により経費削減に努め、効率的で適切な経費の執行がされた点を評価する。

オープン5年目を迎えたこと、また天候の影響等により、入館者数について昨年度と比較し減となったが、リピーター率は依然として高く、継続・発展的な利用が昨年度以上に増加している。子どもの主体性をいかし創造性を育む創作活動や体験活動が好評を得ているものと思われる。

また、団体利用においては若干の利用者数の減少はあるものの、市外、県外からの団体利用もあり好調となっている。団体プログラムアンケートではこれまで同様、高い満足度を得ている。

引き続き、複合施設であることや市民協働型の運営等の強みを十分にいかし、質の高い体験学習等の提供により、団体利用者の維持に努めていただきたい。また、個人の利用者についても様々なイベントやものづくり体験等により、リピーターの獲得に努めていただきたい。

多様な事業展開に加え、きめ細かい施設整備点検の実施や利用者の利便性向上を考えた施設づくりに取り組み、前年度同様、非常に高い満足度を獲得している点について高く評価する。今後も施設の特性をいかした多様な事業展開のほか、保護者が安心・安全に子どもを遊ばせることが出来る施設づくりを継続し、高い利用者満足度を維持するよう努めていただきたい。